

<議論の概要>

1. 規制の是非について

(1) 規制の必要性

- 規制を必要と考える根拠として、次のような意見があった
  - 個人の自由な意思決定の確保
  - 脆弱な立場・状況にある人の保護
  - プライバシー
- 一方で、「なぜ規制が必要なのか分からない」という意見もあった

(2) 規制の線引き

- 規制の対象と範囲を検討すべきという意見が出た
  - ナッジの活用が期待されている分野もある (例: 子供のフィルタリング利用率の向上)
  - 「虚偽」「誤解を招く」「無意識に何かをさせる」などの表現では、どこまで規制されるかが曖昧である (例: 小さい字で表示している場合、全く表示していない場合)
- 規制を広げすぎることへの懸念も出た
  - 数あるダークパターンを一つ一つ規制していくと、最終的に誰も守れないルールとなる可能性がある
  - 心理学やマーケティング手法の進歩自体の否定につながるおそれがある
  - 何かのデザインを一律で規制するのはいかなものか
- 規制を検討する際には、以下の点を考慮すべきという意見があった
  - 規制の導入によって問題を実際に解決できるか (実効性)
  - 規制の導入によってさらに問題が生じないか (デメリット)
  - 一般社会への影響の大きさや将来への影響
  - 自由な経済活動とのバランス

2. 規制手段

- 規制手段として、以下のような意見が出た
  - 適格消費者団体などによる差止めを認める
  - 民事訴訟を通じて裁判所の判断を仰ぐ
  - 様々な主体・手段によって、様々なチェックをかける

<所感>

今までは「誘導的なデザインは問題がある」と漠然と考えていたが、今回のゼミを通して、問題の所在や、今後検討すべき事項がより明確になったと感じる。

また、「どうして問題なのか」という根本的な問いや、「どの程度の誘導であれば許されるか」という点について、共通認識を得ることの難しさも感じた。

今後は、具体的な事例を一つ一つ検討しながら、問題点やその理由について合意形成を図っていくのがよいのではないか。（塩谷）

「誘導的なデザイン」をどのような目的で設計し利用するかは、利用者の倫理観にも委ねられる点を改めて感じた。法や規制の対象は手法ではなく人になるのだろうか？本件の検討を通じて、司法と行政が各々果たす役割についての理解を深めるべきという新たな課題をもてた。（ガニング）